

湯沢が生んだ名僧 了翁さん

# 今なぜ了翁禅師か

期 日 平成26年 **10月26日**(日)  
会 場 **湯沢文化会館 大ホール**

10:00~10:50

**基調講演**

講師 中尊寺貫首

山田 俊和 師

11:00~12:30

**パネルディスカッション**

パネリスト 寛永寺長老  
駒込学園理事長  
萬福寺文華殿副館長  
弘前大学教授

浦井 正明 師  
末廣 照純 氏  
田中 智誠 師  
渡辺麻里子 氏

**入場  
無料**

※お気軽においでください。

14:30~16:30

**演劇と講談のコラボレーション 「了翁さん物語」**

脚本 鈴木 郁朗 氏 講談 宝井 琴桜 師  
出演 地元小学生・高校生、了翁劇団員

**入場料  
1,000円**  
高校生以下無料

※パネル展示もいたしております。ぜひご覧下さい。



## 了翁禅師の事跡

了翁禅師は1630年(寛永7年)、出羽国雄勝郡八幡村(湯沢市八幡)で生まれました。翌年母を亡くし養子になった親族などの先々で不幸が続ぎ、不吉の子として嫌われ辛い日々を送りました。

11歳で隣村の真言宗の寺に、翌年には東成瀬村龍泉寺に寺僕として預けられましたが、浪人齋藤自得の計らいで仏門に入り、生涯を仏教の興隆と貧民救済、開田等の社会事業に尽くしました。

現在も毎年命日には多数の人々が集まり地元の慈眼寺や上野寛永寺で法要が営まれるほか、学問所「勸学講院」の流れを汲む駒込学園や、了翁建立の京都万萬寺塔頭天真院が弟子たちによって受け継がれるなど、了翁禅師の事跡は脈々と生き続けています。

### 功績その1 大蔵経(一切経)の寄進

12歳のとき東成瀬村の龍泉寺で得度した了翁は、14歳のとき、修行の旅に出た平泉の中尊寺で藤原氏奉納の大蔵経が散逸している事を嘆き、大蔵経収集の大願を立てました。

それから全国各地の寺社で厳しい修行を重ね、その荒行の傷跡に苦しんだ末に夢に授かった靈薬「錦袋円」が江戸で評判を呼び莫大な富を得ました。41歳のとき、この資金を基に念願の大蔵経を求める事ができ、まず上野の寛永寺にこれを寄進しました。その後24年の歳月をかけて、天台宗、真言宗、禅宗の計21寺院に大蔵経を納めました。仏教の教学興隆を願った了翁禅師の宗派を超えた高い仏教精神がうかがわれます。

### 功績その2 公開図書館の創設と学問所

1670年、了翁41歳のとき、天海版「大蔵経」七千巻を買い求め、上野不忍池に小島を築き経堂を建てて安置し、翌年には文庫蔵を建てて内外の万巻の書籍を取めて一般公開しました。僧俗を問わず講学者が自由に見て利用できる文庫は、日本史上最初の【公開図書館】と言われています。

しかし、不忍池経堂は埋立地のため手狭なうえ湿気が書籍を痛めること、1682年に起こった江戸の大火で類焼したので、東叡山内に更に大規模な施設をつくる計画をたて、日光法親王に願い出て寛永寺境内に2916坪の広大な土地を賜りました。そして、講堂、経堂、文庫、学僧のための寮舎まで備えた『勸学講院』(学問所)を設立し、宿願である仏教興隆のための勉学の間を創り僧俗問わず多く人材を育成しました。こうした功績から、56歳のとき、輪王寺宮から勸学院権大僧都法印の大変高い位を贈られました。東京都文京区の『駒込学院(私立・駒込中学・高等学校)』は、学校沿革に「勸学講院が本学園の濫觴となる」と掲げその精神を今に受け継いでいます。

### 功績その3 社会福祉事業家

了翁禅師は夢の中で授かった「錦袋円」の販売で莫大な富を得ましたが、その全てを大蔵経の寄進や勸学講院の運営など仏教の興隆と、困っている人々を救うために費やしました。

各地で「錦袋円」を施薬したり、1682年の「八百屋お七の大火」では焼け出された人を助けるため多額の義捐金や餅を配ったり、迷子の子ども世話や焼死者の埋葬など行い「如来様」と呼ばれ敬愛されました。その他、灌漑開田事業など生涯に亘り多くの社会福祉活動を行いました。

### 功績その4 福神漬の考案者

現在カレーにつきものの福神漬は、実は了翁がそのもととなるものを考案したという伝承があります。勸学講院では、寮生のおかずとして、野菜の切れ端を刻んで漬けたものを出していました。了翁の物を大切に作る心や質素な暮らしぶりを反映しているエピソードではないでしょうか。